

# 墓

五年

回数 13

筆順 一 廿 昔 莫 墓  
オン ボ  
フン はか

成り立ち



日がしずんで、草原の中に、かくれた形を表した「莫」と、「土」とを組み合わせて作った字です。

「日」ではなくて、「死体がかくれ」ている「土」という意味の字で、「死体をほうむる」「おはか」を表したものです。

土を高く盛り上げた「おはか」は「墳」と言い、平らな「おはか」を「墓」と言います。

使い方

▽お彼岸には、いなかへお墓まいりに行きます。墓前にお花をそなえ、お線香を上げます。

▽東京のまん中、青山には墓地があり、たくさんのお墓碑や墓標が立っています。

熟語例

▽墓前（お墓の前。墓石の前）

▽墓地（お墓のある土地。たくさんのお墓が集まっている所）

▽墓碑（碑は「石」に文字をほりつけたもの）のこ。死んだ人の名前や事跡などがほりつけられた墓石）

▽墓標（標は「しるし」。お墓に立てられた「墓じるし」の柱）

▽墳墓（墳は、高く盛り上がったもの、墓は、平らなもの。どちらも「おはか」のこと。例墳墓の地〔先祖からのお墓のある土地。つまり、「故郷」〕）

▽墓穴（墓穴は死者をほうむる穴。例自ら墓穴を掘る〔自分で自分を滅ぼすようなことを言います。〕）

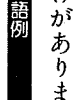
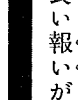
# 報

五年

回数 12

筆順 五 幸 報  
オン ホウ  
クン むくりいる

成り立ち



「人が逆さぶりの刑に処せられるすがた」を表した「幸(幸300)」と、「人をとらえる」ことを表した「良」とを組み合わせて作った字です。

人がとらえられて逆さぶりにされるのは、おかした罪の「報」によりまします。それで、「報い」という意味を表したものです。例報恩、報酬、報奨、報復、果報。

昔は、この刑を行う場合、見せしめのため、この事を広く人々に、「知らせ」ました。それで、「知らせる」という意味にも使われます。例報知、報告、警報、広報、公報。

使い方

▽「果報は寝て待て」と言われますが、それは初めから寝ていようというのではなくて、やるだけのことをやったら、あとはよくよくないで結果を待てということだと思えます。因果応報ですから、なまけていて良い報いがあるわけがありません。

熟語例

▽果報（因果応報の意味。良い因（種）は、それに応じて良い結果（実）となって報いられる、という意味です。「良い結果の報い」ということばですが、ふつう「好運」の意味に使われています。）

▽応報（原因の良い悪いに応じた報い。因果応報）

▽報恩（恩に報いること。受けた恩を返すこと。）

▽報奨（良い行いに報いてほめ、奨励〔すすめ励ますこと〕すること。）

▽報知（報も知も「知らせる」こと。告げ知らせること。）

▽報告（告げ知らせること。ふつう、上司に命ぜられて実行した結果を告げ、知らせることを言います。）

▽広報（市町村などの役所で、住民に広く知らせる文書）